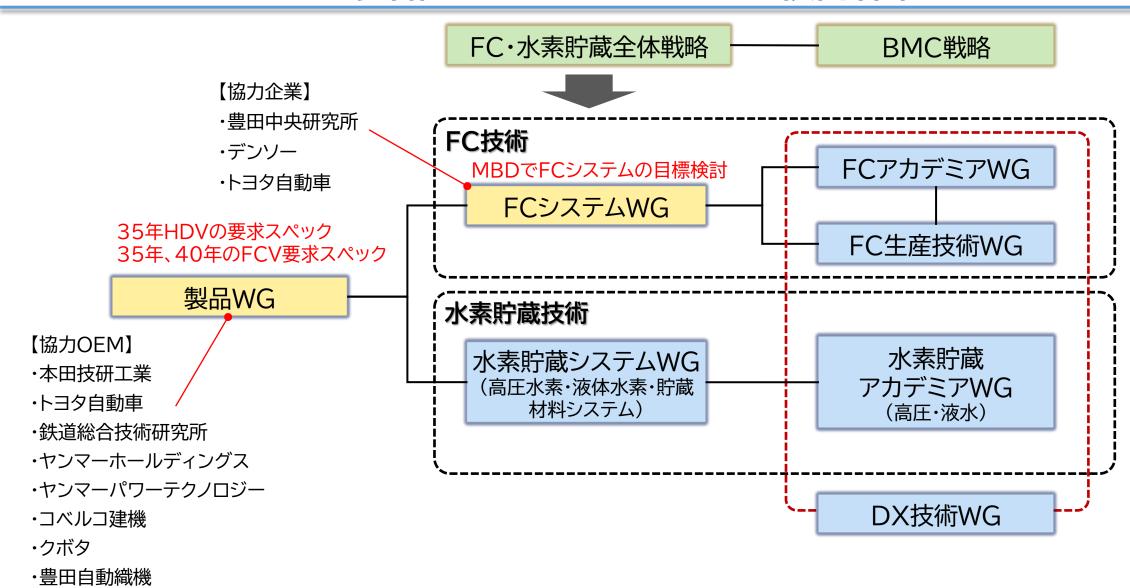
NEDO燃料電池・水素技術開発ロードマップ中間報告会

# NEDO 燃料電池・水素技術開発ロードマップ (FCV・HDV 用燃料電池技術開発) 製品・FCシステムWG

プレゼンター:山本敦巳(トヨタ自動車)、渡辺隆男(豊田中央研究所)、福田健太郎(デンソー)

- 1. 製品・FCシステムWG 体制・実施内容
- 2. ロードマップおよび解説書の主な追加・変更箇所
- 3. 2035年頃の製品・FCシステム目標の検討

### 製品WG·FCシステムWG検討体制

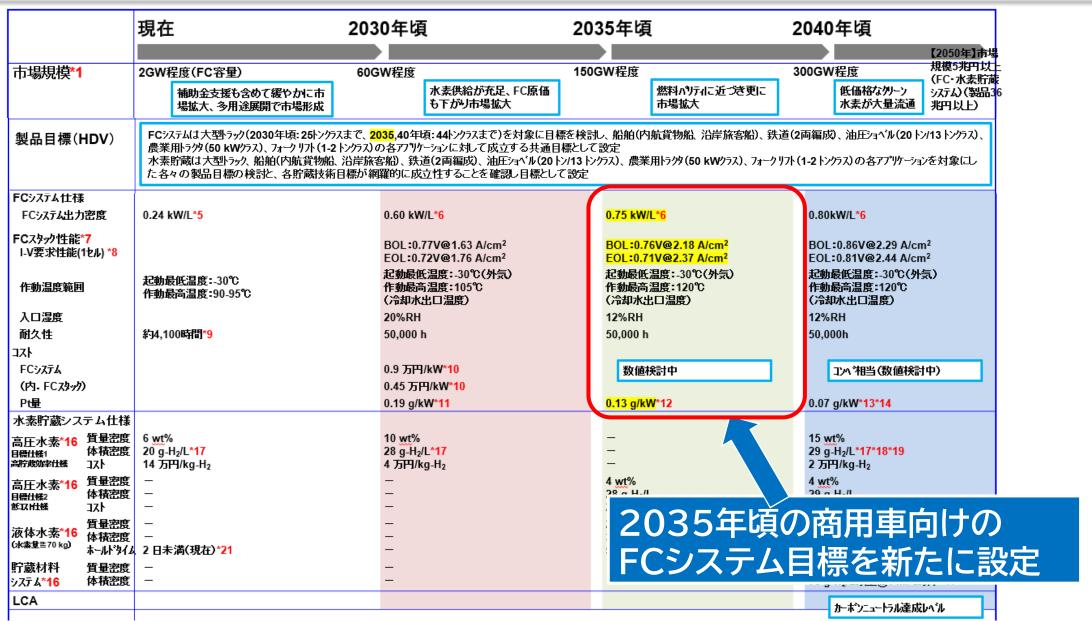


製品の要求仕様からFCシステム目標の設定、水素貯蔵や生産技術への要求を提示

- ①目標設定のため製品前提検討
- ②2035年のHDV向けのFCシステム目標の設定

(次年度実施予定)最新動向を踏まえた目標値の更新

# ロードマップ本紙(HDV)



<sup>※6</sup> 各アプリケーションのFC最大出力/FCシステム搭載スペースで算出し、最も厳しい値を設定(解説書2.3.2参照)

<sup>※12</sup> Pt目付量0.22 mg/cm²(空気極0.18 mg/cm², 水素極\*0.04 mg/cm²)としてスタック1基あたりの定格出力186kW, MEA面積283 cm², 396セルを前提条件とした数値

# 今年度の解説書追記箇所

#### 目次

1. FCV • H	HDV 用燃料電池ロードマップの概要1
1.1	ードマップ策定の背景1
1.2 燃	料電池自動車の産業としての重要性と普及シナリオ2
1.2.1	産業としての重要性2
1.2.2	将来の車載用 FC の市場規模と普及シナリオ4
1.3 技	術目標7
1.3.1	製品目標7
1.3.2	FC システム目標
1.3.3	FC 材料目標10
1.3.4	FC 生産技術目標
1.3.5	水素貯蔵システム目標
1.3.6	DX 技術目標
2. 目標の	考え方と達成のための技術課題15
	考え方と達成のための技術課題
2.1 各	
2.1 各 2.1.1	アプリケーションの現状の課題と目標15
2.1 各 2.1.1	アプリケーションの現状の課題と目標15 各アプリケーションを取り巻く環境15
2.1 各 2.1.1 (	アプリケーションの現状の課題と目標
2.1 各 2.1.1 ( ( 2.1.2	アプリケーションの現状の課題と目標
2.1 各 2.1.1 ( ( 2.1.2	アプリケーションの現状の課題と目標
2.1 各 2.1.1 ( ; 2.1.2 2.1.3 2.1.4	アプリケーションの現状の課題と目標
2.1 各 2.1.1 ( ; 2.1.2 2.1.3 2.1.4	アプリケーションの現状の課題と目標
2.1 各 2.1.1 ( 2.1.2 2.1.3 2.1.4 2.1.5	アプリケーションの現状の課題と目標
2.1 各 2.1.1 (; 2.1.2 2.1.3 2.1.4 2.1.5 2.1.6 2.1.7	アプリケーションの現状の課題と目標
2.1 各 2.1.1 ( ; 2.1.2 2.1.3 2.1.4 2.1.5 2.1.6 2.1.7 2.1.8	アプリケーションの現状の課題と目標 15 各アプリケーションを取り巻く環境 15 1) 2030 年頃の市場規模 15 2) 各アプリケーションに対して海外を含む 2030 年頃に適用が予測される規制 16 使用環境 16 最大出力 17 耐久時間 17 FC システム搭載性 17 貯蔵システム搭載性 18 航続距離または連続運転時間 18
2.1 各 2.1.1 ( ; 2.1.2 2.1.3 2.1.4 2.1.5 2.1.6 2.1.7 2.1.8	アプリケーションの現状の課題と目標

2.2 要求 I-V 特性の検討23
2.2.1 2030 年頃の目標設定の進め方23
2.2.2 大型トラック
(1)大型トラックの製品要件とシステム構成23
(2)要求 I-V 特性の導出24
(3)動力性能要件25
(4)計算手順
(5) 要求 I-V 特性
(6)今後の課題
2.2.3 他のアプリケーションのシステム成立の検討29
(1)各アプリケーションのシステム構成29
(2) 各アプリケーションの耐久条件30
(3)耐久成立性の検討結果32
(4)各アプリケーションの使われ方33
2.2.4 2040 年目標
(1) 2040 年頃の目標設定の考え方36
(2)計算前提
(3)計算方法
(4) ギャップ把握とケーススタディ
(5)結果:2040 年頃の目標 I-V 特性39
2.2.5 2035 年目標
(1) 2035 年の目標設定の考え方41
(2)計算前提42
(3)計算方法
(4) 結果: 2035 年の目標 I-V 特性
2.3 FC システムとしての技術目標
2.3.1 コスト
2.3.2 FC 体積出力密度
2.3.3 Pt 量(資源循環と将来目標)50
2.3.4 CN 対応に向けた水素 FC 以外の取り組み状況52
(1)水素エンジン52
(2) e-Fuel53
(3)2次電池(バッテリ)53

# 2035年目標の前提

年代	2030年頃	2035年頃	2040年頃	
位置づけ	代表クラスへの導入	中間目標	ディーゼルパリティ	
レイアウト	ラジェータ FCシステム 25トンを含む各アプリケーションを検討 44トンは参考値			
システム最大出力 [kW]	400 (FC300+Bat100)	425 (FC325+Bat100)	450 (FC350+Bat100)	
耐久時間 [h]		50,000h		
FCシステム許容体積 [L]		502		
FCシステム許容重量 [kg]		460		
FCシステム数 [基]	4(ただし搭載不可)	2	2	
冷却性能 [kW/℃]	5.6	4.7	3.5	

### 2035年頃は44トントラックの製品要件を段階的に満たしていく中間目標として設定

### Pt量(資源循環)

#### 将来の車載用FCの市場規模と想定される普及シナリオ ※解説書:表 1.2.2-1

		~2030年	2030年~	2035年~	2040年~
市場規模	FC容量ベース	2GW程度 (2022年度)	60GW程度 (2030年頃)	150GW程度 (2030年頃)	300GW程度 (2040年頃)
	FCV台数	約1.5万台	約30万台	約70万台	約180万台
	FCトラック台数※	約0.2万台	約15万台	約40万台	約60万台
想定される普及シナリオ		補助金支援も含めて 緩やかに市場拡大			低価格なクリーン水 素が流通、あらゆる 産業で利活用本格化

※参考: PwC Strategy&, "The Dawn of Electrified Trucking" (2022/10)

表 2.3.3-1 モビリティ向け Pt 需要の内訳[2] ※解説書:表2.3.3-1

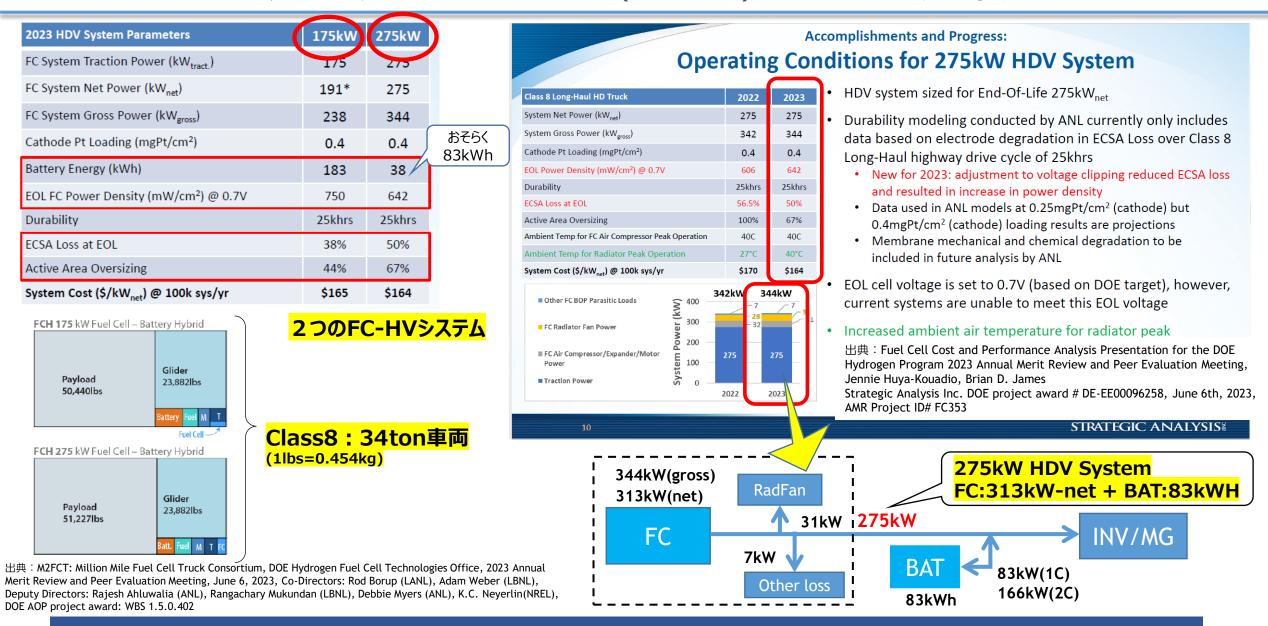
		•	, ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		
車種	プラチナ需要:自動車触媒(単位:1,000 oz)				
	2010 年	2011 年	2012 年		
小型ガソリン車	640	545	620		
小型ディーゼル車	2,025	2,105	2,020		
大型車	400	490	500		
自動車以外の移動機器	10	45	100		

出展:Johnson Matthey ホームページより作成

< FCトラックに使用できるPt> 小型ガソリン車向け+大型車向けの一部をFCトラックに使用できると仮定 1台当たりのPt使用量=19.6[トン]/40[万台]=48.9[g/台]

ただし、将来のコスト目標、Ptリサイクル技術、非Pt触媒の開発状況を鑑みて必要に応じて更新

FCトラック普及台数とPt流通量からPt目標量は0.22mg/cm2(0.13g/kW)に設定



Class8(34ton-HDT)において、2タイプのFC-HVシステムが示されている

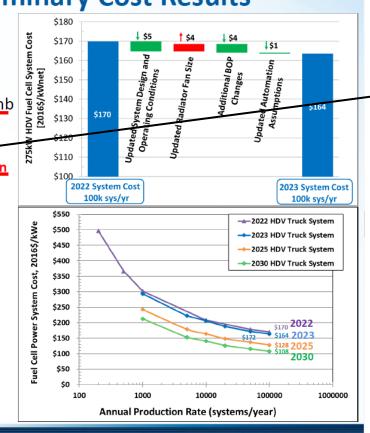
#### **Accomplishments and Progress:**

#### **2023 HDV System Design and Preliminary Cost Results**

- Cost impact of 2023 HDV System Design Changes
  - HDV system cost reduced by ~\$6/kW from 2022 analysis
  - Largest cost impact: increase in power density from 606 to 642mW/cm<sup>2</sup>
- High Temp Loop radiator and fan size based on 20-minute hill climb (6.5% grade) continuous FC peak power load (344kW<sub>gross</sub>)
  - Increased from 27°C to 40°C ambient temp, increased max radiator fan power required (fan power increased 18% from 28kW in 2022 to 31kW in 2023)
  - Increased cost by \$4/kW
- BOP Changes include reduction of BOP replacement cost (40% to 35% of BOP cost) and reduction in air filter pressure drop (1.3 to 0.5psi)
- Updated Automation: Switched from Pick-&-Place to Roll-2-Roll processing for MEA manufacturing at high volume



- 22% Cost reduction from 2023 to 2025
- 16% Cost reduction from 2025 to 2030



求められる動力性能



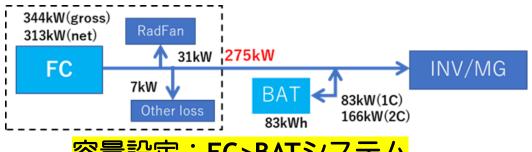
- 6.5%勾配をFC最大出力 344kWで、20分間連続走行
- ラジエータファン動力増加

出典: Fuel Cell Cost and
Performance Analysis Presentation
for the DOE Hydrogen Program 2023
Annual Merit Review and Peer
Evaluation Meeting, Jennie HuyaKouadio, Brian D. James
Strategic Analysis Inc. DOE project
award # DE-EE00096258, June 6th,
2023, AMR Project ID# FC353

STRATEGIC ANALYSIS

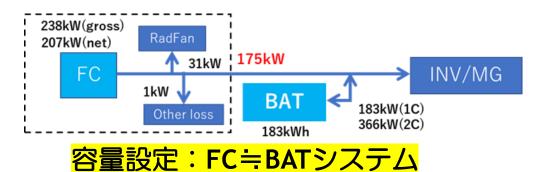
## DOE Class8(34ton)-HDT 2つのFC-HVシステム

### ① Class8(34ton)-275kW-HDT

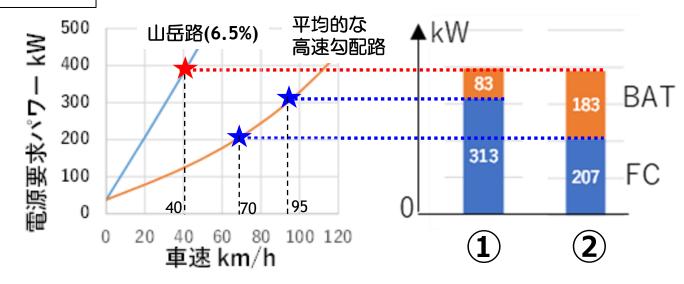


容量設定:FC>BATシステム

### 2 Class8(34ton)-175kW-HDT



性能解析



	1	2
特徴	高速定常(~95km/h)を FCで走行可能	高速定常(70km/h〜)を FC+BAT活用走行
	動作点効率良好☀ 高燃費ポテンシャル大☀	大容量BAT活用 (重量増)
課題	FC(IV,耐久)性能向上による 熱的な成立性	BATの重量低減 (エネルギー/重量密度向上)

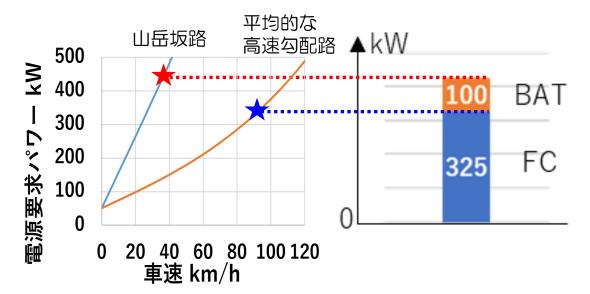
①はFC技術課題あるも高い目標、 ②はFC現状技術で実現可能性大(BAT課題あり)

# FCの研究促進の観点からFC性能レベルアップで目標設定



#### 動力性能要件(DOE①と共通)

- ・山岳坂路を40km/h程度で走行可能(BATアシスト)
- ・高速道路で法定速度程度をほぼFC出力で維持可能



#### システム構成

#### 年毎に、FC性能をレベルアップ

44ton-HDT	203X	2035	2040	
システム出力目標値 Diesel Parity	(450kW)	(450kW)	450kW	
システム出力実現目標値	400kW	425kW	450kW	
FC定常出力	300kW	325kW	350kW	
BAT容量	100kWh@BOL 90kWh@EOL	_		
FCスタック数	4	2	2	
FC出力密度	75kW/stack 100kW/stack(25t)	163kW/stack	175kW/stack	

- ※1)BAT容量設定は制動力と燃費性能をほぼ犠牲にしない値で設定
- ※2)これ以上のBAT容量増は、現状技術による製品化手段としてはあり得るが、 産業界で取り組むべき課題。(製品性・コスト・収益性)

DOE①と共通の考え方:FC連続定格:300~350kWk(EOL)、年毎にレベルアップ FC連続定格確保の下,山岳登坂要件からBAT容量90kWh(EOL)を設定

- DOEではClass8(34トン車両)に対して①, ②のFC-HVシステムで検討
  - ①275kWシステム(FC:313kWnet+BAT:83kWh):FC主体システム
  - ②175kWシステム(FC:203kWnet+BAT:183kWh):BATリッチシステム
- ①FC主体システムは、我々NEDOと車両製品要件が共通 【車両製品要件(資料から読み取り解析)】
  - ・高速定常:90km/h,平均的な高速道路の勾配をFCで連続走行可能
  - 急坂路過渡: 40km/h, 6.5%勾配を約20min走行可能
- ②BATリッチシステムは、高速定常をFC+BATアシストで走行
  - BAT容量の組合わせ次第では、現状FC技術で製品化の可能性大
  - ・課題はBATエネルギー/重量密度向上
  - ⇒ 今回の検討対象外

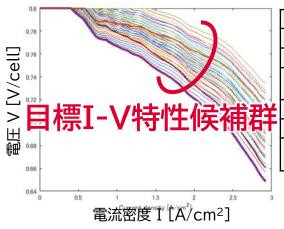
FCの研究促進のため FC性能レベルアップで目標設定



### 目標I-V特性の候補

<u>材料目標への繋がり</u>を考え、 以下の物性パラメータの組合せで 候補を表現

$$V = V_{OCV}$$
 -  $R_0$ I -  $\frac{RT_{cl}^{out}}{\alpha F}$ log  $\left(\frac{I}{i_0}\right)$  -  $\frac{RT_{cl}^{out}}{\alpha F}$ log  $\left(\frac{C_{ref}}{C_{O2} - R_{gas}}\right)$  活性指標 ガス拡散抵抗



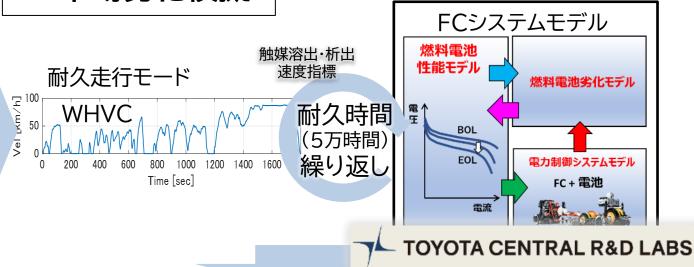
$V_{OCV}$	開回路電圧
R	気体定数
$T_{cl}^{out}$	冷却水出口温度
α	バトラーボルマー式 の移動定数
F	ファラデー定数
$C_{ref}$	基準酸素濃度
$C_{O2}$	セル面内代表酸 素濃度

### 目標I-V特性の絞り込み

大型トラックの使われ方を想定して、<u>市場劣化を模擬</u> 最低限<u>満たすべき性能要件</u>から目標I-V特性を絞り込み

1.市場劣化模擬

使われ方に応じたFC劣化を予測



### 2.性能要件判定

性能要件を満たせるか判定

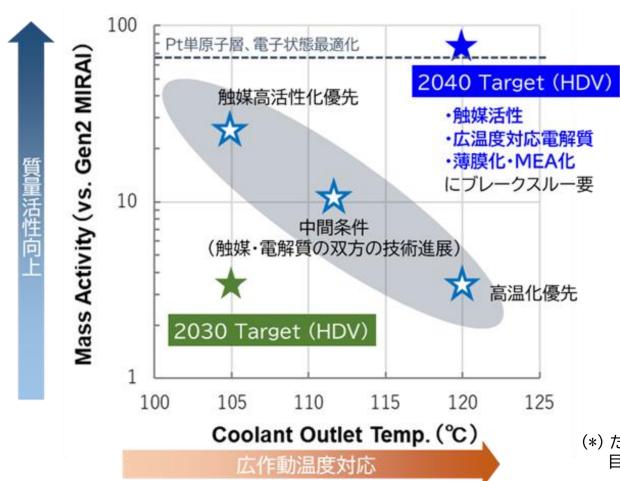
2035年目標:FCシステム連続出力325kW

性能要件	203X	2035	2040
FC定常出力	300kW	325kW	350kW

市場劣化後に性能要件を満たす目標I-V特性をシステムシミュレータを活用し導出

## 2035年目標設定の考え方

● 2035年目標設定の考え方



下記、他特性についても同様

- 電子・プロトン抵抗低減
- ガス輸送抵抗(\*)
- 触媒耐久性向上

(\*) ただしガス輸送抵抗は、システムシミュレーション上、2030年頃の 目標設定時点で十分に低減済みのためケーススタディには含めない

2030年頃~2040年頃の間の特性でケーススタディを実施 FCアカデミアWGと議論し、材料進化のシナリオを考慮した目標I-V特性を設定

## ケーススタディの計算前提

#### 解説書表2.2.5-1ケーススタディの前提条件から抜粋、一部追記・修正

	項目	2030年頃	2035年頃	2040年頃
車両		(44トントラック)	44トントラック	44トントラック
製品目標	耐久時間		5万時間	
出力	FC定常出力 <sup>※1</sup> [kW]	300	325	350
山刀	システム最大出力 <sup>※1</sup> [kW] 400 425		ディーゼルパリティ	
	走行抵抗(空気抵抗Cd)	現行値(非公開)	現行値(非公開)	に向呼だ中間目標
	FCスタック数 [基]	4 総電極面積	<b>責</b> 2	2
	セル枚数 [枚]	330	330, 396	・ 車両は30年頃同等
	セル面積 [cm2]	273	273, 283 <b>運転水温</b> 90	293
車両・システム	2次電池容量 [kWh]	放熱性能、		
T-1-3 2 7 7 7	ラジエータ冷却性能 [kW/℃]	5.6	4.7, 5.6	3.5
	FC最大水温 [℃]	105	105~120	ケーススタディ対象
	FC補機消費電力 ※Gen2を100%とした場合の比率	各100%	ACP:96.5%, WP:95%, HP:50%, FDC:90%, RadFan:90%	ACP:93%, WP:90%, HP:0%, FDC:80%, RadFan:80%
耐久要件	耐久走行パターン	材料特性	WHVC+始動停止(1回/cycle)	トトCシステム補機
触媒耐久前提 (Gen2 MIRAI比)	触媒溶出·析出速度倍率	1	1, 1/2	/ 進化を想定
材料特性※2	触媒活性向上倍率 ※2	3.4	3.4~53	53
(Gen2 MIRAI比)	電子プロトン抵抗低減量 [mΩ·cm²] <sup>※2</sup>	45	45~70	70

<sup>※1</sup> 走行抵抗を現行値とした場合

### 目標設定の考え方に基づいてケーススタディ計算前提を決定

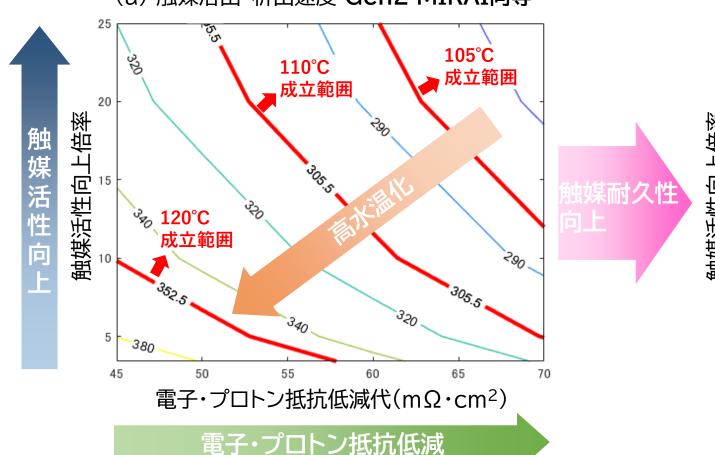
<sup>※2</sup> システムシミュレーションにおける値であり、材料物性目標とは異なる

## ケーススタディ結果

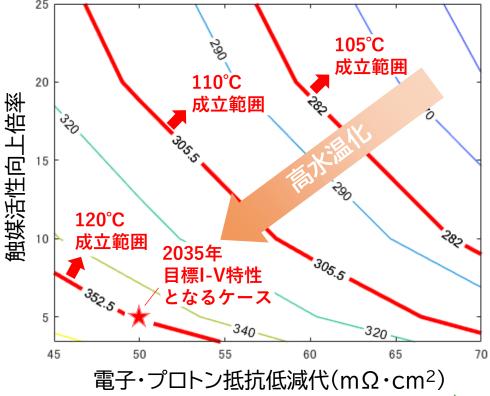
● 市場劣化後に性能要件を満たす各種物性パラメータ(解説書 図2.2.5-1)

成立範囲はラジエータ冷却性能4.7kW/℃で図示

(a) 触媒溶出·析出速度 Gen2 MIRAI同等



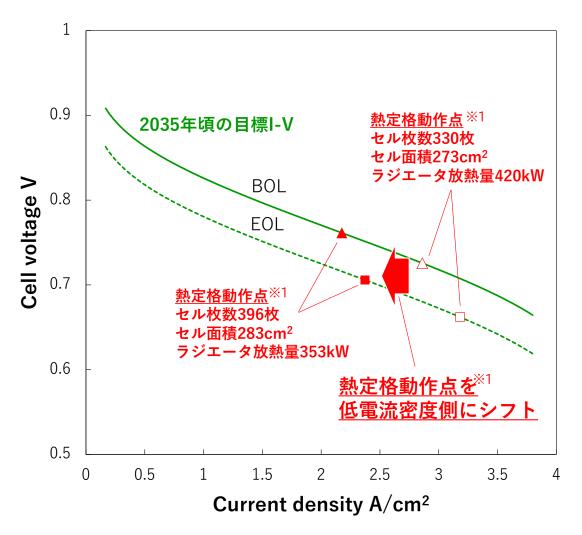
(b) 触媒溶出·析出速度 Gen2 MIRAI比 1/2倍

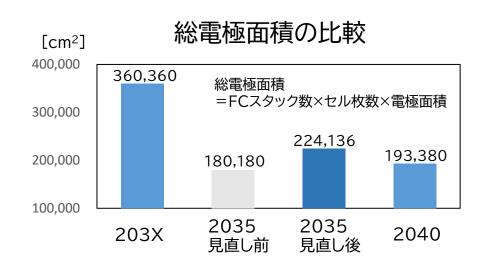


電子・プロトン抵抗低減

触媒活性向上、電子・プロトン抵抗低減、触媒耐久性向上、高水温化のケーススタディを実施 FCアカデミアWGと議論し、材料進化のシナリオを考慮した目標I-V特性を決定

## 総電極面積増加による動作点の見直し





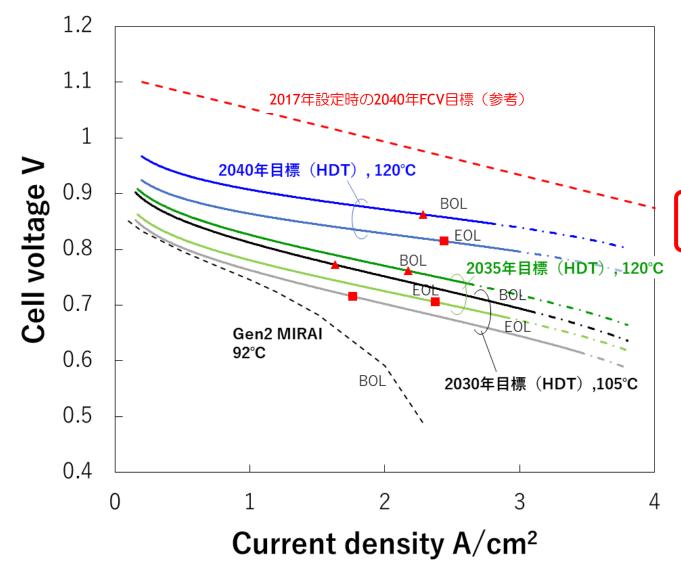
- ・高電流密度域では耐久後のECSA低下により ガス輸送抵抗低減に対する要求が過大となる
- ・セル枚数、セル面積を増やすことで熱定格動作点<sup>※1</sup> を低電流密度側にシフト (代わりにラジエータ冷却性能前提を低減)

図2.2.5-2 セル枚数、セル面積、ラジエータ放熱量違いの熱負荷動作点

※1 熱定格動作点: FCシステム連続出力325kW

材料進化に過度な要求とならないよう、総電極面積を増やして動作点を低電流密度側にシフト

## 導出された目標I-V特性



※1 BOL (Beginning of Life: 初期性能)、EOL (End of Life: 耐久後性能),耐久パターン: WHVC+始動停止(1回/cycle)

※2 2030年頃目標I-V特性(Pt量0.19g/kW前提):

▲:電流密度1.63A/cm<sup>2</sup>, 電圧0.77V, ■:電流密度1.76A/cm<sup>2</sup>, 電圧0.72V

※3 2035年頃目標I-V特性(Pt量0.13g/kW前提):

▲:電流密度2.18A/cm<sup>2</sup>, 電圧0.76V, ■:電流密度2.37A/cm<sup>2</sup>, 電圧0.71V

※4 2040目標I-V特性(Pt量0.07g/kW前提):

▲:電流密度2.29A/cm<sup>2</sup>, 電圧0.86V, ■:電流密度2.44A/cm<sup>2</sup>, 電圧0.81V

※5 温度はスタックの冷却水出口温度

注) I-V特性上の実線もしくは点線は44トンHDTで想定した使用範囲を表す。それ以外の一点鎖線の範囲は、乗用車を含めた他のアプリケーションで使われる可能性があり、今後乗用車向けの検討の際に改めて必要性を議論する

図1.3.2-1 大型トラックの製品要件から導出された 2030年頃、2035年頃、2040年頃の目標I-V特性

### 2035年のIV目標(BOL, EOL)を追加

# FC目標の海外との比較

	NEDO (2030年頃)	NEDO (2035年頃)	NEDO (2040年頃)	DOE <sup>*1</sup> (2030)	DOE <sup>*1</sup> (Ultimate)	M2FCT <sup>*2</sup> (2025)	IMMORTAL**3
対象アプリケーション	大型トラック・船 舶・鉄道・建機・ 農機・フォークリ フト	大型トラック・船 舶・鉄道・建機・ 農機・フォークリ フト	大型トラック・船 舶・鉄道・建機・ 農機・フォークリ フト	大型トラック	大型トラック	大型トラック	大型トラック
冷却出口最高温度 [℃]	105	120	120	_	_	90	_
動作点I-V	(EOL)0.72V @1.77A/cm <sup>2</sup>	(EOL)0.71V @2.37A/cm <sup>2</sup>	(EOL)0.81V @2.44A/cm <sup>2</sup>	0.769V @1.09A/cm <sup>2</sup>	0.769V @1.09A/cm <sup>2</sup>	(EOL)0.7V @1.07A/cm <sup>2</sup>	(EOL)0.675V @1.2A/cm <sup>2</sup>
Pt目付量 [mg/cm <sup>2</sup> ]	0.24	0.22	0.14	0.3	0.25	0.3	_
Pt量 [g/kW]	0.19	0.13	0.07	0.357	0.298	0.4	_
耐久時間 [hr]	50,000	50,000	50,000	25,000	30,000	25,000 (30,000@'30)	30,000

<sup>%1:</sup> DOE Program Record #19006, "Hydrogen Class 8 Long Haul Truck Targets", Aug. 2019

### 幅広いアプリケーションに対する共通目標として海外と比べて高い性能・耐久目標を設定

<sup>※2:</sup> DOE Annual Merit Review 2021, "M2FCT: Million Mile Fuel Cell Truck Consortium" (Project ID: FC339)

<sup>※3:</sup> IMMORTAL Website, https://immortal-fuelcell.eu/index.php/about-immortal/overview#\_ftn3